

大分医療センター  
広報誌

vol.21  
2023年 新春

# あいしん 大分

## 新年のご挨拶

院長	2
副院長	4
統括診療部長	5
事務部長	6
看護部長	7
薬剤部長	8

## 連携医療機関のご紹介

菜の花クリニック	9
職場紹介 呼吸器内科	10
キャンドルサービス	11
合同慰霊祭を開催して	12
消防訓練	12
人事異動	13
外来診察医担当表	14



豊後一の宮 柞原八幡宮 南大門（大分市）（撮影：院長 奈須伸吉）

# 2023年 新年の挨拶



院長  
奈須伸吉

皆さん新年あけましておめでとうございます。昨年は12月中旬に初雪が降り、温暖な大分市市街地に1、2cmの雪が積もりました。今年は珍しく寒冬かと思いましたが、その後は例年以上に暖かい日が続いています。

年頭にあたり、まずコロナパンデミックが長く続いている中で、地域医療に尽くしていただいている職員の皆さまに心より感謝申し上げます。そして、連携医療機関の皆さまの負担が少しでも軽減しますように、また地域住民の皆さまが健康に過ごせますようにお祈りいたします。

さて、2023年は十干十二支「癸卯（みずのと・う）」の年です。「癸」は十干の最後にあたり、一つの物事が収まり次の物事へ移行する時という意味があるそうです。十二支の「卯」は萌える、茂（しげる）、繁殖力の強いウサギのように増えるという意味があり、ウサギは月からの使者で平和と豊かさの象徴だそうです。両方をそなえた「癸卯」の年は、さまざまな事に区切りがついて次に向かって行動し、成長、発展して明るい世界が広がる年になりそうに思えますね。

現在、新型コロナウイルスパンデミックは3度目の冬を迎えています。今までのパンデミック期を振り返り、天候で例えると、2019-21年はたびたび嵐ときどき曇りでしたが、2022年は何度か晴れ間が見えた1年でした。まだウイルスの感染力は強いですが重症化

率は低下しており、以前ほどの恐怖感はありません。パンデミック初期に、ある高名な感染症の先生が言われていたのですが、過去のウイルスパンデミック史を紐解くと、パンデミックは平均5-10年続いているようです。医学が進歩しているので短く見積もって5年と考えたら、皆さんもう峠は過ぎていますよ、あまり悲観的に考えるのは止めましょう。第8波が収束して、もっと早くコロナが弱い存在になってほしいのですが、そもそも世間一般と医療機関とは事情が異なっていることと、現在のウイルスの感染力を考慮すると、まだしばらくの間、特に感染流行拡大期には一定の感染対策を続ける必要があるでしょう。しかし流行縮小期には、院内諸行事（歓迎会や送別会、慰労会など）を少しずつ再開したり医療従事者の行動制限を緩和したり、その他の制限についても今後検討してゆきたいと思っています。

卯年で一気に跳躍する必要はありませんが、医療従事者がコロナに一年中振り回されるのは寅年までで終わりにしたいですね。いずれにしても皆さんが目の前のことを地道にコツコツやってゆけば、必ず道は開けてくると思います。

2022年の当院の診療ですが、前年までと比べると一般診療へのCOVID-19の影響は少なくて済みました。しかし、感染患者受け入れ重点医療機関を継続しCOVID-19診療に戦力を配分していますので、パンデ

ミック前のように一般診療に戦力を充てることは出来ていません。それでも、とくに第6,7波の間は大分県中部医療圏でクラスターが頻発し長期化する病院が多い中で、当院への救急車搬入は大幅に増加し、職員は皆本当によく頑張ってくれました。当院では過去に2度院内クラスターが起きましたが、その後約2年間は大規模なクラスターは生じませんでした。この間は、COVID-19 感染症に対する対策を強化し、病棟に紛れ込んだCOVID-19を早期発見して院内感染が拡大する前に度々防いで、とてもうまくいっていました。しかし、昨年12月下旬に久しぶりに院内クラスターが発生し、いつもは成功していたウイルスバスターは今回はあまり効果がなく、数日で急拡大しました。この間、急患の受け入れと入院をほぼ全て停止しましたので、地域住民の方々と関連医療機関、消防署にはご迷惑をおかけしましたが、その後2週間余りで収束でき、病院機能を再開中です。気を付けていても、起きる時には起きるものだという教訓になりましたので、今後の感染対策に生かしてゆきたいと思います。

職員の皆さん。今年も、大分医療センター病院目標にある「職員はみな共同体の一員。お互いに尊重して思いやること。」を強く意識し、みなさんが今居る場所を大切にしてください。そして日々小さな喜びを見つけ感謝しながら、先行きに対する楽観を持ち、当院をより良い病院にしてゆきましょう。それでも、もし嫌なことや辛いことが有った時は、月を見てウサギさんとお話ししてください。きっと気分が落ち着きますよ。

真砂なす数なき星の其中に吾に向ひて光る星あり  
正岡子規

時ものを解決するや春を待つ  
高浜虚子

医療従事者の働き方改革施行まであと1年余りとなりました。今年は、当院の逆紹介推進プロジェクトをさらに進めてゆかなければなりません。そして、大分県東部地区の病診・病病連携をよりいっそう強化し、今後も当院が地域医療に貢献できるように頑張りますので、地域住民の皆様、関連医療機関の皆様、本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

卯



# 新年のご挨拶



副院長  
中村 雄介

あけまして、おめでとうございます。本年もどうぞよろしくおねがいたします。

さて、昨年クリスマスの時期に、久しぶりにコロナ禍に見舞われました。コロナ話は「もう十分です」ということで、正月のゆったり気分へのあこがれから歴史浪漫に浸ってしまおうと思います。科学の発達や情報の拡散が目覚ましい現代においても、未だ明かされない謎があります。伝承は歴史の中に埋もれた事実なのか、あるいは仕組まれた虚構なのでしょう。

島が沈むとか消えるとかの話で世界的に有名なのは、約1万2000年前に、大地震と津波によって滅んでしまったアトランティス、そして同様に、火山噴火と津波によって滅んでしまったムー大陸があげられます。いずれも多くの小説・映画の題材になっています。

小松左京の「日本沈没」は、昭和世代には衝撃的な作品でしたし、一昨年のリメイクドラマの「日本沈没-希望のひと-」も予想外に好評でした。日本全部が沈まないにしても、少なくない数の沈没島伝説があります。鹿児島県に属する甌島列島こしきしまれっとうに位置するといわれる万里ヶ島まんりがしま。長崎県の五島列島おぢかしまの小値賀島の西に位置する高麗瀬こうらいじまにあったとされてる高麗島。そして、大分には「日本のアトランティス」瓜生島の伝説があります。それは、別府湾の瓜生島が慶長元年（1596年9月4日）の地震により、いくつかの島とともに海中に没したという話であります。これは「まんが日本昔ばなし」にも掲載されるような有名な話なのだそうです。愛読していた星野之宣の『宗像教授異考録』にも「失われた島」のエピソードとして、瓜生島が採用されていたのを後になってから知りました。ずいぶん前のことですが、別府出身のI先生の実家から遠くないところに瓜生島にまつわる地蔵尊があることを聞いた覚えがあります。また、瓜生島の寺が水没し本尊が流出、勢家（ド

ン・キホーテとフレスポの間くらいの場所）に流れ着き、そこに瓜生寺（現在は威徳寺）として再建されたという言い伝えがあるそうです。それでは、島の沈没は歴史的にも事実なのだろうと思われるかもしれませんが、しかし、瓜生島の名称を記載した最も古い文献は江戸時代のもので、それ以前の記録は見つかっていないのです。記録がないだけなのか、創作された話なのか、あるいは別府湾に沈んだ港とされる「沖の浜」の一部が当時瓜生島と称されていたのか、わかっていないのです。ザビエルは1551年8月に府内「沖の浜」に上陸して大友館を訪れています。「沖の浜」ではキリストの教えとともに、どんどん西洋文化が流入し、きらびやかな南蛮行列（あの銘菓ザビエルの包紙のような）も行われたでしょう。南蛮貿易は「沖の浜」港を窓口として行われ、豊後の「出島」が形成されてきました。貿易により経済力は増大し、大友氏は最盛期を迎えていきます。しかし、1586年には薩摩の島津氏が豊後府内に侵攻し、繁栄を極めた国際貿易都市豊後府内は灰燼かいじんに帰します。その5年後、慶長地震で「沖の浜」が消失することになったのは大友氏の盛衰を象徴するかのようです。

「日本のアトランティス」発見を夢見る研究者たちは、大正時代から文献調査を行っており、1970年頃には、超音波を用いた海底地層の実地調査が行われ、いまなお研究は続いているそうです。慶長地震は別府湾直下型の地震で、砂嘴（砂の堆積によってでき、海に突き出た低平な細長い堆積地形。）地形が、液化現象や津波によって、大分川河口の港、海の方へ崩れた、という仮説が現在のところ有力ですが、まだ、明らかな証拠はなく、依然としてなぞのままです。いつの日にか別府湾底から遺跡・遺構が発見されるかもしれません。

前述した沈島伝承の万里ヶ島では島の金剛力士像の顔を赤く塗ったために、高麗島もまた不心得者が石地藏の顔を赤く塗ったため島が沈んだとされています。瓜生島も「島の住人が仲良くしなければ、恵比寿様の顔が赤くなる」との言い伝えを全く信用しない不心得者が、蛭子像の顔を赤く塗った祟りで、島が沈んだとされています。民俗学者の柳田国男は、「石像の顔色

を塗り替えることで島が沈む」話は中国の古い説話にあって、それが日本の伝承に引用されたのだろうと推測しているようですが、これも確かなことはわかりません。説話では、「みんなが大切にしているものを大事にせよ。ないがしろにする人々には禍が降りかかる」と教え諭しているようです。ことしも、みなさん仲良くやってみましょう。よろしくお願いします。

## 新年のご挨拶

統括診療部長

椛島 章



明けましておめでとうございます。

私の記憶が正しければ、コロナ禍になりまして4回目の年末年始となったのではないのでしょうか。皆様が、この年末年始をソーシャルディスタンスを保ちつつも親しい家族・ご親戚・ご友人と集うことができたのであれば幸いです。

当院では「(コロナを) 入れない・(コロナを) 広げない・(診療体制を) つぶさない」を心がけて、ウィズコロナを目指した診療を行ってまいりました。入院患者様に対する入院前コロナスクリーニング検査・外来における発熱患者様の隔離・面会制限と、皆様には御不便な思いを強いてきました。御協力ありがとうございます。にも拘らず、散発的に入院患者様からコロナ陽性者が出られたことも事実です。完全に「コロナを入れない」ことの難しさを痛感いたしました。ただ、ICT（感染対策チーム）を中心としたスタッフによる当該病棟の患者様・職員に対する即時スクリーニング検査実施や陽性患者様の速やかな専用病棟への転棟隔離等にて病棟単位での短期入退室制限にて感染収束ができております。クラスター感染による全病院規模での診療制限は2年間起きておりません。油断は禁物ですが、「コロナを広げない」は実行できているのではと考えます。一方、病院内での感染防止には気を付け

ていても、御家族より感染者が出て、(不可抗力的)濃厚接触者との判断のもと出勤停止を余儀なくなるスタッフもいます。人員的にかなり慢性的に逼迫した状態であることは否めません。診療体制を「つぶさない」事に苦心いたしております。

今年の干支は、「卯」です。陰陽五行説からいうと、今年の卯は、「癸卯」だそうです。癸卯は、十干の10番目にあたる癸と、十二支の4番目にあたる卯の組み合わせで、十干十二支では40番目にあたる組み合わせです。陰陽五行説では、「癸」は雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表しています。十干の最後にあたる癸は、生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しています。「卯」は穏やかなうさぎの様子から安全、温和の意味があります。また、うさぎのように跳ね上がるという意味があり、卯年は何かを開始するのに縁起がよく、希望があふれ、景気回復、好転するよい年になると言われています。2023年は「癸」と「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると考えられます。当院もそうありがたいものです。

今年も何卒よろしくお願いします。

# 新年のご挨拶



事務部長  
黒木 嘉文

新年明けましておめでとうございます。

まずは、医師、看護師の皆様をはじめ、大分医療センターで働く全ての職員の皆様におかれましては、病院運営にご協力及びご尽力いただき感謝いたします。本当にありがとうございます。

2023年の干支は「癸卯（みずのと・う）」です。干支は中国の古い思想「陰陽五行思想」を礎にした60年周期で循環する暦ですが、「癸卯」の「癸」は物事の終わり始まりを意味する他、「揆（はかる）」という文字の一部であることから、「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われているそうです。「卯」についてはもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があると言われています。この2つの組み合わせである「癸卯」には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているそうで、まさにコロナ禍により世界中が何事においても停滞している中で、ようやく脱コロナに向けた新たな明るい未来を予感させてくれそうです。

当院の運営におきましては、コロナの感染状況に左右されながらも、コロナ重点医療機関としての使命を果たしつつ、地域の拠点病院として一般患者の受け入れも行っています。そのおかげもあり、県からの補助金を含め令和2年度、3年度と黒字決算となりました。今年度は補助金の減額が影響して経常収支率100%（黒字）を達成できるか微妙なところですが、また、コロナが2類から5類への変更が検討されており、そうなると、コロナ補助金が無くなることも考えられます。このような事を踏まえると、医療本業の稼ぎである医業収益で収支相償を目指さなければなりません。令和2年度、3年度は経常収支は黒字ですが、医業収支（補助金含まず）は赤字です。まずはコロナ禍により減少した入院患者数をいかに回復させ、経営を安定させるかが重要となります。そういった意味では2023年は今後の大分医療センターが生き残っていけるかどうかの分岐点になるかもしれません。

2023年は干支の「癸卯」のとおり、コロナと向き合い懸命に働いている職員の皆さんの頑張りが報われ、また大分医療センターに明るい未来が訪れる良い年となるように、職員の皆さんの声に耳を傾けながら、共に前に進み頑張りたいと思っています。

今年もよろしく願い申し上げます。

# 新年のご挨拶



看護部長  
山田 展代

新年あけましておめでとうございます。

癸卯の2023年がスタートしました。

新型コロナウイルス感染症との対峙が始まりもうじき3年になろうとしています。医療現場の奮闘は変わらず続いていますが、幾つかの感染拡大の波を乗り越えて、我々は少なからず知見を得て対応力を身につけてきたと思います。

当院も2020年にクラスターを経験し痛みを味わいましたが、昨年の年末近く迄は小規模発生はあっても大きな支障をきたすことなく全職員協力のもと病院運営ができ、文字通りwithコロナを体現できたと考えます。改めて患者対応をしていただいた職員の皆様、ご支援いただいた多職種の皆様のご尽力に心より感謝を申し上げます。

withコロナにおける感染症対策は続きますが、同時に現在と未来を見据え病院運営を前進させていかねばなりません。経営改善やアフターコロナ後の対応、変化する地域のニーズを捉えた質の高い医療の提供、さらに働き方改革の推進などがあります。

2023年の干支「癸卯」は、「寒気が緩み、萌芽を促す年」であるそうです。停滞した世の中に希望が芽吹き、花開く助走の年であると説かれています。当院も本年2月より病床再編し再スタートを切る予定です。ピンチをチャンスに変え、今いる仲間を大切に、ま

た地域の皆様方との連携を大切にして、訪問看護ステーション、地域包括ケア病棟を有し、2次救急医療を担う当院の特色を生かして更に地域医療に貢献できるようにしていきたいと思います。

京セラ、KDDIの創始者である稲盛和夫氏が京セラフィロソフィの中で、「人生・仕事の結果というものは、『考え方×熱意×能力』という方程式で決まると考えている」と述べられています。どのような状況に直面しても能力はさることながら如何に前向きに考えて熱意をもって取り組むかで結果が変わってくる、考え方こそが人生を大きく左右するという哲学です。看護部は難しい局面に直面しても常に前を向いて積極の心で取り組み、患者へ良い看護を提供するという方向性を見失わずに実践して参ります。そのためには各人が折につけ看護を目指した初心を想起し、今自身が行っている看護の価値に気づき、それを積み重ねていけるような取り組みを看護部全体で行っていききたいと思います。また、効率性・効果性にも重点を置き業務改善も継続して進めて参ります。24時間患者に最も身近に接する専門職としての自覚と誇りを持って、他者を思いやり共に学びあいながら質の高い看護が提供できるよう風通しのよい職場環境づくり、人材育成にも努めて参ります。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

# 新年のご挨拶



薬剤部長  
竹添 達也

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの影響は依然続いてはおりますが、薬剤部におきましても引き続き、職員一同力を合わせて対策にまた業務に尽力していきたいと思えます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

昨年度薬剤部では、欠員の影響により2年間実施できていなかった病棟薬剤業務実施加算の取得に再度取り組みを行ってまいりました。

5月末に九州厚生局に無事届け出を受理され、6月1日より算定を開始することができました。

薬剤師が病棟業務において薬剤管理指導業務に入ること、医師の方々は医師としての専門性を、看護師の方々は看護の専門性をより発揮できることにつながります。

また、薬剤師が臨床と近い場所で業務することにより、投与量の確認などで積極的に関与したり、副作用のモニタリングを専門的に行うことができるなど、様々な点で患者さまが安全な医療を受けられることにつながると思えます。

チーム医療においても薬剤師が医師、看護師、およびその他の病院職員と一体となって連携することで、それぞれの専門性を生かした医療の提供が可能になり、結果的に医療レベルの発展にもつながると考えます。

病棟で勤務するという事は、患者さまに一番近い場所で働けるということでもあり、また臨床のスペシャリストである医師や看護師から多くのことを学ぶことができます。他職種の視点から新たな発見をしたり、ときには意見を交換し合うことなど、そうした経験が身となり、さらに薬剤師としてスキルの幅を広げていけるとも思えます。

まだまだ不十分な点もあるかとは思いますが、まずは「目の前のことを一つずつこなしてゆくことこそが近道」という言葉を念頭におき、この業務にしっかり取り組んでいきたいと思えます。





## 菜の花クリニック

所在地	〒879-2201 大分市佐賀関2266番地
TEL/FAX	097-575-3260 / 097-575-3261
診療科目	内科・眼科
病床数	なし
診療時間	月～金 8:00～17:30 土 8:00～12:30
休診日	土曜日午後・日曜日・祝祭日・8/14～15・12/30～1/3



院長 住吉 明子  
すみよし めいこ



2020年2月にダイヤモンドプリンセス号で新型コロナウイルス感染が確認されてやがて3年になります。

当院では2021年9月から、診療開始時間を1時間繰り上げて患者さんの流れがスムーズになるようにしてきました。

玄関でのナースの体温チェック、体調の聞き取りを行なうと、春秋はよいですが、夏と冬は冷暖房の効かない場所で対処するナースは大変です。

これらの防護服等が早く過去のものとなるとよいですね。

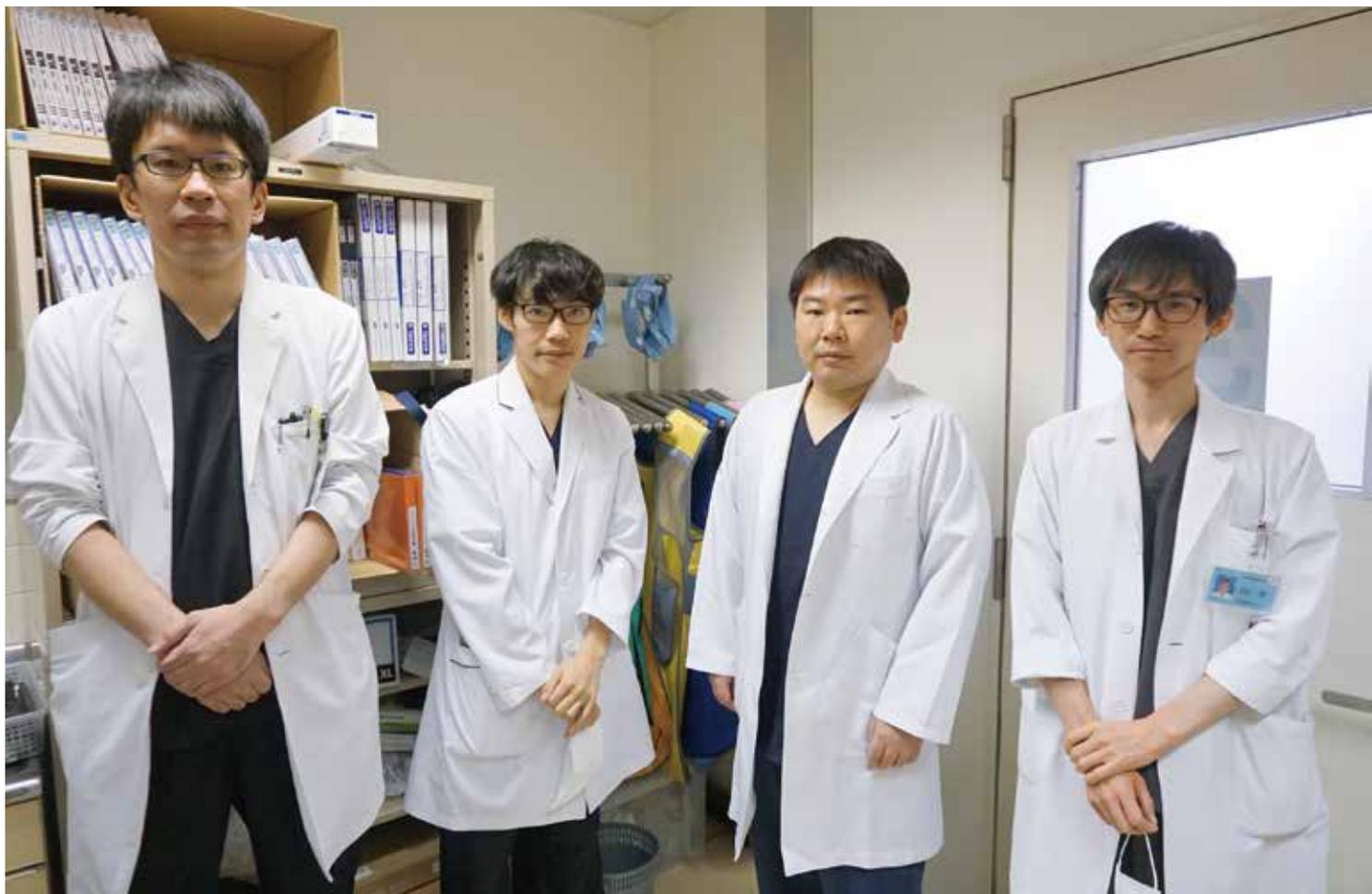


# 呼吸器内科

*Respiratory  
medicine*

呼吸器内科部長  
大谷 哲史

呼吸器内科では呼吸器疾患全般の診断と治療をおこなっております。対象疾患には、呼吸器悪性腫瘍（肺癌など）、呼吸器感染症（肺炎・胸膜炎など）、気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺疾患などが挙げられます。特に肺癌については、大分大学医学部附属病院腫瘍内科の先生を交えて、呼吸器内科、呼吸器外科医師を中心に、必要に応じて看護部、薬剤部など多職種のスタッフが集まり、治療方針を検討するカンサーボードを毎週開催しています。また高齢化社会に伴い近隣医療機関から肺炎患者の紹介も多く、入院中の患者の院内肺炎に対するコンサルトも常に受けております。現在は常勤4人体制で、これからも地域に根ざした医療をおこなえるよう尽力していく所存です。よろしくお願いいたします。





# キャンドルサービス

2022.12.21



## メリークリスマス

クリスマスイブに先駆けて、今年度も12月21日にキャンドルサービスを開催いたしました。院長先生をはじめ、医師、看護師、事務部門の方と、クリスマスソングを流しながら各病棟を回りました。病室の入り口では患者さんが笑顔でむかえてくれ、こちらも思わず笑顔になりました。短い時間ではありましたが、クリスマス気分を共有することができ、幸せな気持ちになれるひとときでした。

(医療サービス・広報誌ホームページ委員会)



# 合同慰霊祭を 開催して

令和4年11月24日（木）に大分医療センター大会議室において、令和3年10月1日から令和4年9月30日までの過去1年の間に当院においてご逝去されました225名の御霊をお迎えして、合同慰霊祭を厳かに執り行いました。

本来ならば、ご遺族の方々に参列していただき、ご一緒に追悼の会を開催するところですが、本年も新型コロナウイルス感染拡大が継続しており、感染拡大防止の観点から、当院職員のみで慰霊祭を執り行わせていただきました。

式自体は、開式の辞のあと、出席者全員による黙祷、院長による追悼の辞が述べられ、その後は、職員による献花が執り行なわれ、閉式の辞を以って合同慰霊祭は閉式となりました。

当院としては、お亡くなりになられた方々より頂いた尊い所見を将来に生かすべく、初心に戻ってより一層の研鑽を積み、医療及び看護における技術向上に努める覚悟でございます。

最後になりますが、225名の御霊のご冥福を心よりお祈り申し上げますと共に、当院の合同慰霊祭にご賛同いただきましたご遺族の方々に対して、厚く御礼申し上げます。

（経営企画室長 佐藤利彰）



## 消防訓練

令和4年11月14日に、2階病棟出火を想定した消防訓練を行いました。避難誘導や搬送は多くの職員協力のもと迅速に対応できました。当日は天候に恵まれて水消火器による消火器訓練を実施でき、新採用職員を中心に消火器の使用方法を確認しました。  
（庶務班長 竹田津智子）



# 人事異動

## 退職・転出等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考	発令事項	発令日	職名	氏名	備考
退職	R4.12.31	消化器内科医師	濱野 朋恵	大分大学	退職	R4.12.31	看護助手	阿部明日香	
退職	R4.12.31	看護師	廣瀬 千津		退職	R4.12.31	事務助手	竹内 真美	
退職	R4.12.31	看護師	後藤 沙希		退職	R5. 1. 15	事務助手	富崎めぐみ	
退職	R4.12.31	事務助手(外来クラーク)	下野 一美						

## 採用・転入等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考	発令事項	発令日	職名	氏名	備考
採用	R4.12. 1	ドクタークラーク	田邊 弘子		採用	R4.12.15	事務助手	廣岡麻衣子	
採用	R4.12. 1	ドクタークラーク	稗田 幸恵		採用	R5. 2. 1	事務助手(病棟クラーク)	元村さとみ	
採用	R4.12. 1	事務助手(外来クラーク)	秦 早恵子						

## 基本理念

「愛の心・手」で  
病める人々に寄りそう医療

## 基本方針

- 365日24時間断らない診療を目指します
- 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

## 大分医療センターのロゴマークについて

### 全体のコンセプト



Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

- 「緑と赤」… 昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
- 「青」…… 大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
- 「黒」…… 地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。



表紙の写真や大分医療センターのなつかしい写真を募集します。  
ぜひ編集委員へご提供ください！

## 編集委員

委員長 岡田 さおり  
委員 黒木 嘉文 石川 秀利 森崎 久美 梅木 祐 渡辺 岳志 村上 英恵

# 外来診察医担当表

【令和5年1月1日現在】

■ 受付時間 8:30~11:00  
 ■ 診察開始時間 8:30~

※予約の変更は月~金の各13:00~15:00にご連絡ください。  
 (総合支援センター) ☎ 097-593-1112 fax 097-528-9651

【一般外来】 ※連携医療機関の方は8:30~17:15に総合支援センター(地域医療連携部門)へご連絡ください。

診療科	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
糖尿病・代謝・内分泌内科		谷村悠希江 福山 光(新患)	嶋崎 貴信 福山 光 谷村悠希江(新患)	嶋崎 貴信 谷村悠希江 福山 光(新患)	嶋崎 貴信 福山 光 谷村悠希江(新患)	嶋崎 貴信 谷村悠希江 福山 光(新患)
腎臓内科				竹野 貴志(予約制)		
膠原病内科				安倍いとみ(予約制)	梅木 達仁 (予約制 第1・第3・第5週)	
消化器内科 (肝センター)		半澤 誠人 山下 勉 大塚雄一郎	勝田泰志郎 室 豊吉 山下 勉	淀 怜起 山下 勉 大塚雄一郎	水内 梨絵 山下 勉 勝田泰志郎	大塚雄一郎 淀 怜起 半澤 誠人
循環器内科		有川 雅也 後藤 峻大	有川 雅也 棚澤 晃大	山末 象三 棚澤 晃大	山末 象三 後藤 峻大	有川 雅也 後藤 峻大
心臓血管外科					和田 朋之(13:00~) まずは循環器内科に紹介ください	
呼吸器内科 (呼吸器センター)		大谷 哲史(新患) 山本 堯	大谷 哲史 平山 義明(新患)	山本 堯(新患) 平山 義明	大谷 哲史 升井 亮介(新患)	大谷 哲史(新患) 山本 堯
血液内科		諸鹿 柚衣 (9:00~12:00)			樋園 和仁*	
					(木曜日受付時間 新患8:30~10:00/再来8:30~11:00 診察時間8:30~)	
脳神経内科					日野 天佑 (13:00~17:00)	
外科		矢田 一宏 橋本 直隆	梶島 章 笠木 勇太	矢田 一宏 一万田充洋	橋本 直隆 笠木 勇太	一万田充洋
呼吸器外科		(手術日)	高祖 英典	高祖 英典	(手術日)	高祖 英典
整形外科		田畑 知法 田村裕太郎	田畑 知法 田村裕太郎	(手術日)	田畑 知法 田村裕太郎	金曜新患受付10時まで 田畑 知法 田村裕太郎
泌尿器科		午前	午前(10時まで)	午前	午前(10時まで)	午前
		河野 香織 住野 泰弘 奈須 伸吉	河野 香織(新患) 住野 泰弘(新患) 山中 直行(新患)	河野 香織 住野 泰弘 山中 直行	石川 天洋(新患) 住野 泰弘(新患) 山中 直行(新患)	河野 香織 山中 直行 奈須 伸吉
		新患担当は当科で振分けます。(紹介は「外来担当医」宛)				
		午後(予約のみ) 各医師で分担				
婦人科		岡田さおり	岡田さおり	梶原 由衣(午前) 西田 欣広(午後)*	岡田さおり	梶原 由衣
		※水曜日午後 受付時間14:00~16:30 診察時間14:00~17:00				
放射線科		樋口賢太郎	高橋 浩平(午前) 本村 有史(午後)	樋口賢太郎	高橋 浩平(午前) 本村 有史(午後)	樋口賢太郎
内視鏡 (胃腸センター)		水内 梨絵 勝田泰志郎 淀 怜起	大塚雄一郎 水内 梨絵 半澤 誠人	水内 梨絵 勝田泰志郎 半澤 誠人	大塚雄一郎 平江 麻衣 淀 怜起	山下 勉 水内 梨絵
内科系疾患で 専門診療科の判断が困難 な場合の担当科		血液内科	呼吸器内科	循環器内科	血液内科	消化器内科

【特殊外来のご案内】 ※完全予約制となっておりますので、下記にご連絡ください。

ひまん外来	毎週 金曜日 (祝日を除く)	診察時間 14:00~16:00	TEL 097-593-1111 (内線235)
ストーマ外来	毎週 金曜日 (祝日を除く)	診察時間 9:00~12:00	TEL 097-593-1111 (内線711)
緩和ケア外来	毎週 水曜日 (祝日を除く)	診察時間 11:00~12:00	TEL 097-593-1111 (内線739)
フットケア外来	第2・第4 火曜日 (祝日を除く)	診察時間 8:30~11:00	TEL 097-593-1111 (内線235)



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構 認定病院

独立行政法人  
国立病院機構

大分医療センター

<https://oita.hosp.go.jp>



〒870-0263 大分市横田2丁目11番45号 TEL097-593-1111 FAX097-593-3106 / 総合支援センター直通 TEL097-593-1112 FAX097-528-9651